



その石は、淡い桃色をたたえながらも、どこか冷ややかな光沢を放っていた。「恋愛運を高める」という触れ込みは、一種の迷信に過ぎないと知りつつも、人々はその小さな結晶に己の希望を託すのである。その滑稽さと哀れさが、妙に心に残った。

「トルマリン（電気石）」

